

知って備える 防災メモ

第94回



冬特有の備えはお済みですか

朝晩の冷え込みも日増しに強まり、いよいよ本格的な冬を迎える時季となりました。

北海道の中では、比較的温暖と言われる登別市でも、氷点下10度を下回ることもあり、もし、そのような時に災害が発生したら。

真冬が到来する前に、冬の災害を想定した備えを確認しましょう。

厳しい寒さは命をも奪います

冬に災害が発生した場合には、やはり寒さへの備えが必要不可欠です。

普段、ご自宅などで使用している暖房器具のほとんどは電気を使用しているため、災害に伴って停電が発生した場合、その多くが使用できなくなってしまう。



▲真冬にブラックアウトが発生する可能性も

定されることから、ポータブルストーブなどで、コンセントからの電気を必要としない暖房器具

加えて、大雪などにより、避難所に避難することさえもできない状況も想定されることか

を準備しておきましょう。

すでに確保している方も、定期的に動作確認を行ったり、燃料となる灯油やカセットガスなどを確認したりするなど、いざというときに備えてください。

車が命綱になることも

携帯電話やスマートフォンなどの充電、ラジオなどの情報収集だけでなく、暖をとることもできる車は、冬期間の災害時においても、心強い備えとなることがあります。

車種によっては、大容量のバッテリーを搭載しており、災害時などの非常用電源として使用できるものもありますが、燃料がなければ、長時間、利用することはできません。

また、災害時には、燃料の入手が困難になりやすいため、日頃から早めの給油を心掛けるとともに、荒天が予想されるときには、事前に給油することも大事な備えとなります。

▼問い合わせ

総務グループ (☎01130)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

登別朗読ボランティアの会

昭和61年7月に結成した登別朗読ボランティアの会は、目の不自由な方などのため、『声の図書』を作製しています。

現在のメンバーは、50歳代から70歳代までの28人。毎月の月例会や勉強会をした21などで開催し、発声のトレーニングなどを行いながら、輪番で広報のほりべつなどを朗読・録音しています。

「最近では、新型コロナウイルス感染症の影響で、勉強会などができていませんが、それぞれで聞き取りやすいよう工夫しながら、吹き込み、活字を声で届けています。早く以前のように、みんなで集まって、読む練習をしたいと思います」と笑顔を見せる



吹き込む声と心が つなぐ人と人

加入して24年を迎えた森口さんは、「研修会や親睦会など、活動も活発。準備などもありませんが、瀧内智子会長のもと、会員みんなで役割分担をし、楽しむことを第一にしています。だからこそ多くの仲間と共に続けてこれたと思います。これから多くの人に声を届けたい」と話してくれました。

会員同士仲が良く、会の雰囲気が入って加入する人も多くという同会。定期的に体験会も開催している同会に興味のある方は、事務局長の砂原真知子さん (☎862098) まで。



▲昨年取り入れたカセットに代わるデジタル録音図書『DAISY図書』でさらに聞きやすく